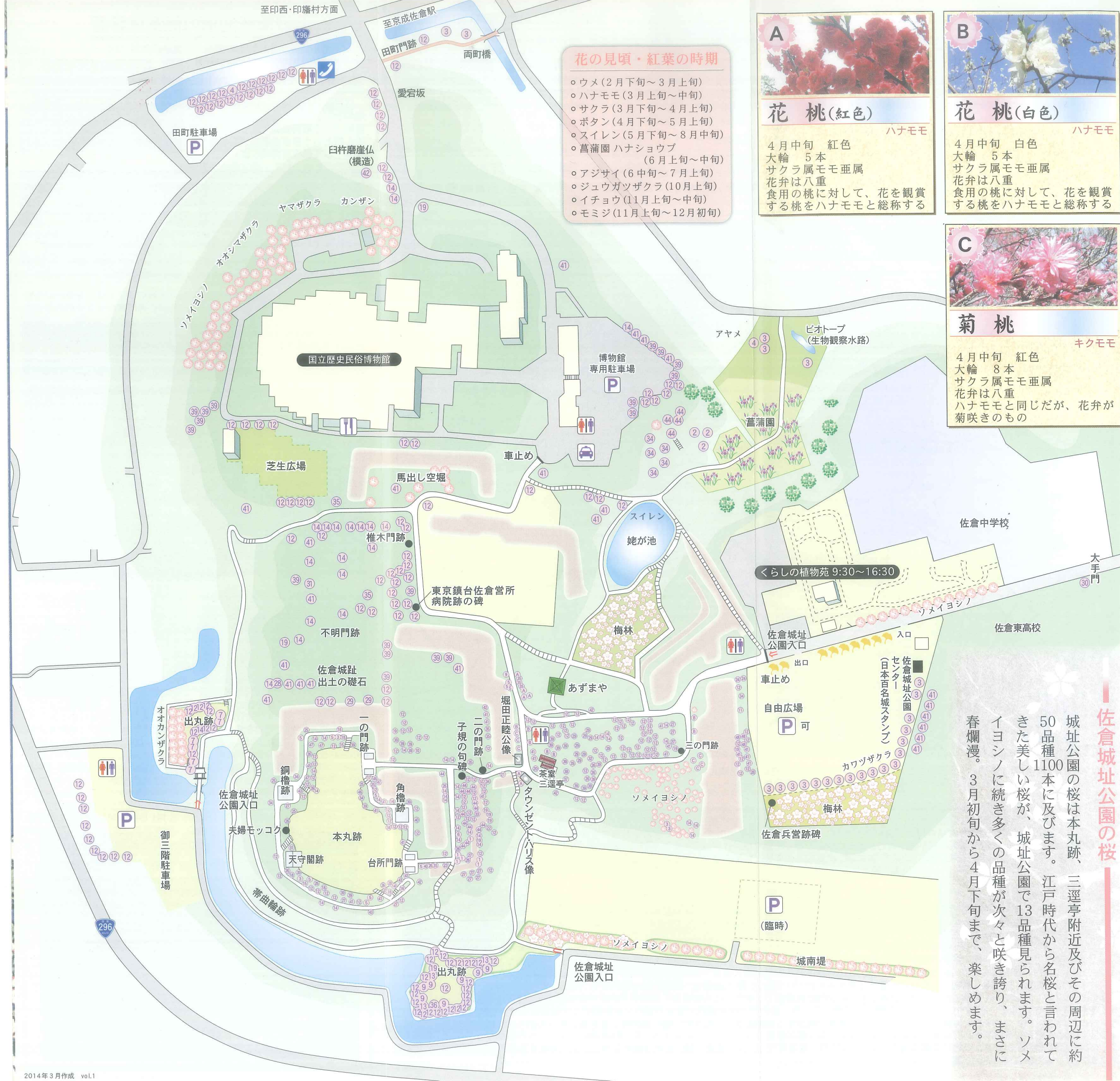




花の見頃・紅葉の時期

- ウメ(2月下旬～3月上旬)
- ハナモモ(3月上旬～中旬)
- サクラ(3月下旬～4月上旬)
- ボタン(4月下旬～5月上旬)
- スイレン(5月下旬～8月中旬)
- 菖蒲園 ハナショウブ(6月上旬～中旬)
- アジサイ(6月中旬～7月上旬)
- ジュウガツザクラ(10月上旬)
- イチョウ(11月上旬～中旬)
- モミジ(11月上旬～12月初旬)



花 桃(紅色)

ハナモモ

4月中旬 紅色
大輪 5本
サクラ属モモ亜属
花弁は八重
食用の桃に対して、花を観賞する桃をハナモモと総称する



花 桃(白色)

ハナモモ

4月中旬 白色
大輪 5本
サクラ属モモ亜属
花弁は八重
食用の桃に対して、花を観賞する桃をハナモモと総称する



菊 桃

キクモモ

4月中旬 紅色
大輪 8本
サクラ属モモ亜属
花弁は八重
ハナモモと同じだが、花弁が菊咲きのもの



冬 桜

フユザクラ

10～12月
4月上旬～中旬 白色
中輪 推定4本
マメザクラ×
花弁は5枚
鬼石町の桜山は天然記念物



支那実桜

シナミザクラ

3月上旬 白色
小輪 2本
花弁は5枚
中国原産、果実は食用になる
花弁の長さで雄しべの長さがほぼ同長



寒 桜

カンザクラ

3月中旬 淡紅色
小輪 3本
カンヒザクラ×ヤマザクラ
花弁は5枚
若芽は紅紫色を帯びた褐色で花と同時に伸びる



大寒桜

オオカンザクラ

3月中～下旬 淡紅色
中輪 25本
カンヒザクラ
×オオシマザクラ
花弁は5枚で縁に細かい凹凸がある



河津桜

カワヅザクラ

3月上旬 淡紅紫色
中輪 28本
カンヒザクラ×オオシマザクラ?
花弁は5枚
縁はやや色が濃い
樹皮は紫褐色で光沢がある



椿寒桜

ツバキカンザクラ

3月中旬 紅紫色
中輪 1本
カンヒザクラ×カラミザクラ
花弁は5枚
花弁が内側に曲がるので、花全体がやや盃状になる

名桜13

- 15 白 妙
- 17 祇王寺祇女桜
- 21 八重紫桜
- 26 鬱 金
- 27 一 葉
- 28 福 祿 寿
- 34 朱 雀
- 35 松 月
- 37 楊 貴 妃
- 38 御車返し
- 39 普 賢 象
- 41 関 山
- 43 天 の 川



江戸彼岸

エドヒガン

3月下旬 淡紅色
小輪 6本 花弁は5枚
江戸に多く栽培され、春の彼岸の頃に咲く
寿命が長く1000年以上の老木や大木が見られる



紅 山 桜

ベニヤマザクラ

3月下旬 紅紫色
中輪 2本 ヤマザクラ群
別名 オオヤマザクラ
エゾヤマザクラ
花がヤマザクラより大きいのでその名がある

城址公園の桜は本丸跡、三巡亭附近及びその周辺に約50品種110本に及びます。江戸時代から名桜と言われてきた美しい桜が、城址公園で13品種見られます。ソメイヨシノに続き多くの品種が次々と咲き誇り、まさに春爛漫。3月初旬から4月下旬まで、楽しめます。

佐倉城址公園の桜



9

寒緋桜

カンヒザクラ

3月下旬 濃紅紫色
中輪 8本 花弁は5枚
鐘形で下垂する 平開しない
花が終わると花弁が散ること
なく、花全体がくっついたま
ま落ちる



14

大島桜

オオシマザクラ

4月上旬 白色
大輪 約49本
ヤマザクラ群
花は一重で芳香あり
鱗片は粘る 葉は塩漬けにし
て桜餅を包むのに利用



19

八重紅枝垂

ヤエベニシダレ

4月上旬 淡紅紫色
小輪 10本
エドヒガン群
花弁は15~20枚
楕円形でねじれる
高木 枝は長く枝垂れる



24

松前早咲

マツマエハヤザキ

4月上旬 紅紫色
大輪 2本
ヤマザクラ群
タカサゴ×?
花弁は10~20枚
高木



29

山桜

ヤマザクラ

4月上旬 白色、淡紅色
中輪 約26本
花弁は5枚
若芽は開花時にかなり展開す
る
高木



34

朱雀

スザク

4月上~中旬 淡紅紫色
大輪 11本 花弁は10~12枚
オオシマザクラの仲間
花柄と小花柄が細くて長い
ので花は下垂する
小高木 枝は上向き



39

普賢象

フゲンゾウ

4月中~下旬 淡紅色
大輪 47本
2本の雌しべが葉化して長く
突き出す この様子を普賢菩
薩が乗る白象に見立てて名前
がつけられた



44

駿河台句

スルガダイニオイ

4月中旬 白色
中輪 18本
オオシマザクラの仲間
花弁は5枚+旗弁
しばしば旗弁がある
強い芳香がある



10

紅枝垂

ベニシダレ

3月下旬 紅紫色
小輪 1本
エドヒガン群
花弁は5枚
花弁は平開せずやや鐘形にな
るものが多い



15

白妙

シロタケ

4月上~中旬 白色
大輪 2本
オオシマザクラの仲間
花弁は10~15枚
花弁が円形で純白である
小高木



20

枝垂染井吉野

シダレソメイヨシノ

4月上旬 微淡紅色
中輪 1本
オオシマザクラ
×シダレザクラ
花弁は5枚 やや半開で外に
そりかえり漏斗形になる



25

花笠

ハナガサ

4月中旬 紅紫色
大輪 7本
オオシマザクラの仲間
フクロクジュ×?
花弁は34~40枚
雌しべは1~2本で葉化する



30

盛岡枝垂

2014年
枯死

モリオカシダレ

4月上旬 白色
中輪 1本
エドヒガン群
シダレザクラ×ソメイヨシノ
花弁は5枚
2014年枯死により伐採



35

松月

ショウゲツ

4月中~下旬 淡紅色
大輪 11本
オオシマザクラの仲間
花弁は21~26枚
花柄、小花柄がともに長く花
は下垂する 小高木



40

紅笠

ベニガサ

4月中~下旬 淡紅色
大輪 2本
イトクリ×サトザクラ
花弁は50~60枚
雌しべは2本で葉化する



45

霞桜

カスミザクラ

4月中~下旬 淡紅色
中輪 1本 花弁は5枚
ヤマザクラの仲間
花期はヤマザクラよりはるかに
遅い
若葉は開花時に伸びる



11

雛菊桜

ヒナギクザクラ

4月上旬 淡紅色
中輪 1本
チョウジザクラ群
花弁は100枚以上 二段咲き
の花がまじる若芽は開花時に
伸び褐色を帯びた黄緑色



16

金剛桜

コンゴウザクラ

4月中旬 白色
中輪 2本
ヤマザクラ群
花弁は5枚で強い芳香あり
日光の輪王寺のコンゴウザク
ラは国の天然記念物に指定



21

八重紫桜

ヤエムラサキザクラ

4月上旬 紅紫色
大輪 1本
ヤマザクラ群
花弁は5~10枚
若芽は開花時によく伸びる
小高木



26

鬱金

ウコン

4月中旬 黄緑色
大輪 11本
オオシマザクラの仲間
花弁は7~18枚で独特の凹凸
がある
内側の花弁は旗弁になる



31

高砂

タカサゴ

4月中旬 紅色
大輪 2本
チョウジザクラ×サトザクラ
花弁は10~15枚
僅かに鐘形
雌しべは時に2本



36

妹背

イモセ

4月中旬 淡紅紫
大輪 1本
花弁は30~70枚 二段咲き
ひとつの花に雌しべが2個づ
つ有り、果実も2個づつ付く、
その為妹背の名が付いた



41

関山

カンザン

4月中~下旬 紅紫色
大輪 50本 花弁は20~45枚
オオシマザクラの仲間
雌しべは2本で葉化する
花柄、小花柄がやや長く、花
は下垂する



46

松前花山院

マツマエカザンイン

4月中~下旬
淡紅紫色 大輪 2本
オオシマザクラの仲間
花弁は25~40枚
円形でしわがありねじれる
雌しべは2本で葉化する



12

染井吉野

ソメイヨシノ

4月上旬 微淡紅色
中輪 約690本
エドヒガン×オオシマザクラ
花弁は5枚
萼筒に毛が多い
天狗巣病に罹りやすい



17

祇王寺祇女桜

ギョウジギョウザクラ

4月中旬 淡紅色
中輪 1本
ヤマザクラ群
花弁は約14枚
萼筒は筒状鐘形
高木



22

仙台屋

センダイヤ

4月中旬 淡紅紫色
大輪 1本
ヤマザクラ群
花弁は5枚+旗弁
先端とふちはやや色が濃い



27

一葉

イチヨウ

4月中旬 淡紅色
大輪 13本
オオシマザクラの仲間
花弁は20~40枚
1本の雌しべが葉化すること
から品種名になった



32

水上

ミナカミ

4月中旬 白色
小輪 1本 ヤマザクラ群
花弁は5枚 平開せず
僅かに鐘形
花には芳香がある
花は下垂しない



37

楊貴妃

ヨウキヒ

4月中~下旬 淡紅色
大輪 1本
オオシマザクラの仲間
花弁は約20枚
花柄、小花柄ともにやや長く
花は下垂する 現在幼木



42

上溝桜

ウワミズザクラ

4月中~下旬 白色
極小輪 5本
ウワミズザクラ亜属
1本の花柄に約1cmの5弁の
花を房状に15~30個つける



47

紅玉錦

ベニタマニシキ

4月中~下旬 淡紅色
中輪 4本
オオシマザクラの仲間
花弁は40~100枚
雌しべは2本で葉化する
若葉は開花時に展開する



13

枝垂桜

シダレザクラ

4月上旬 白色
小輪 3本 エドヒガン群
別名 イトザクラ
花弁は5枚
形、大きさ、色の変異が多い
しばしば大木になる



18

紅鶴桜

ベニツルザクラ

4月上旬 紅色
中輪 4本
カンザクラ×ソメイヨシノ
花弁は5枚
先端はより濃い紅紫色



23

佐野桜

サノザクラ

4月中旬 淡紅紫色
大輪 1本 ヤマザクラ群
花弁は11~20枚
内側に旗弁あり
高木 枝は上にむかって伸び
ほうき状になる



28

福祿寿

フクロクジュ

4月中旬 淡紅紫色
大輪 3本
オオシマザクラの仲間
花弁は18~27枚でねじれた様
に波打ち、枝先に鞠のように
集まって咲く



33

アメリカ

2009年
枯死

アメリカ

4月中旬 淡紅紫色
大輪 1本
エドヒガン群
花弁は5枚+旗弁
高木 若芽は開花時にわずかに
伸び、褐色を帯びた黄緑色



38

御車返し

ミクルマガエシ

4月中旬 淡紅紫色
大輪 1本 オオシマザクラ
の仲間 花弁は5枚+旗弁
花の直径は約5cm 枝は上向
きに伸び、樹形はほうき状
現在幼木



43

天の川

アマノガワ

4月中~下旬 淡紅色
大輪 4本 花弁は11~20枚
オオシマザクラの仲間
枝は上に伸び、花も上向きに
咲きほうき状
芳香がある 小高木



48

兼六園菊桜

ケンロクエンキクザクラ

4月下旬 淡紅色
中輪 3本
オオシマザクラの仲間
花弁は200枚以上
球のようにつく菊桜で二段咲
きすることもある

■家康 土井利勝に築城を命ず



土井家紋
(六本杓杓水車)

戦国末期に千葉氏は小田原北条に従属した関係にあり、秀吉の小田原攻めと同時に千葉氏の居城本佐倉城も落城、千葉一族は壊滅四散します。やがて関ヶ原合戦の後家康が江戸に開府し、本佐倉には家康の五男武田・六男松平などが入封、続いて老中土井利勝が入ります。利勝は家康・秀忠・家光の三代に側近として仕え、徳川幕藩体制の基礎を固めた知略の人として知られます。利勝は家康の命により、築城半ばで当時廃城となっていた戦国期の鹿島城跡に、慶長16年(1611)近世佐倉城の築城に着手し、6年余でほぼ完成したと伝えられています。築城に当たり家康は、この城の要害堅固さに、天下の名城たらんと督励したよし。利勝は24年間在位し、その後古河藩に転封して大老の職に上りました。



土井利勝肖像画
(古河市正定寺蔵)



利勝父・母・妻の供養塔 佐倉松林寺



佐倉 松林寺

■走中の居城

以来佐倉城は、江戸城を囲む関東東域の諸国や海上の動静を窺う拠点城となり、西の小田原や北の川越などと共に江戸城を取り巻く要衝として、徳川譜代の有力大名が次々と封ぜられます。このなかには幕府の老中職についた重要人物が多く、その数は徳川各藩中最多を数えます。そのようなことで俗に老中の城などといわれます。

歴代藩主一覧 (近世佐倉城)

藩主	入封年	在位	石高	備考
土井利勝	慶長15 1610	24	142,000	老中 小見川より入封後、大老 (古河藩) 豊後日田より入近江膳所へ転封摂津高槻より入
石川忠総	寛永10 1633	2	70,000	
松平定信 (形原)	寛永12 1635	3	40,000	
松平康信	寛永15 1638	3	36,000	摂津高槻へ再転
堀田正盛	寛永19 1642	10	110,000	老中 信濃松本より入
堀田正信	慶安4 1651	9	100,000	改易 幕法違反
松平乗久 (大給)	寛文元 1661	18	60,000	上野館林より入肥前唐津へ転
大久保忠朝	延宝6 1678	8	93,000	老中 肥前唐津より入相模小田原へ転
戸田忠昌	貞享3 1686	14	71,000	老中 武蔵岩槻より入
戸田忠真	元禄12 1699	2	67,800	越後高田へ転
稲葉正通 (正往)	元禄14 1701	2	102,000	老中 越後高田より入
稲葉正知	宝永4 1707	21	91,000	山城 淀へ転
松平乗昌	享保8 1723	23	70,000	老中 山城 淀より入
松平乗佑	延享2 1745	1	60,000	出羽山形へ転
堀田正亮	延享3 1746	15	110,000	老中 出羽山形より入
堀田正順	宝暦11 1761	45	110,000	
堀田正時	文化2 1805	6	110,000	
堀田正愛	文化8 1811	13	110,000	
堀田正篤 (正睦)	文政8 1825	35	110,000	老中 (2度)
堀田正倫	安政6 1859	12	110,000	廃藩置県

■堀田氏十一万石と佐倉藩



堀田家紋
(堅水斜)

近世佐倉城には、築城から明治廃藩に至る258年間に9家20人の大名が次々と封ぜられますが、このうち堀田正盛、正信父子の前堀田時代と、正亮から明治廃藩までの後堀田時代を通過して141年に涉り堀田氏の統治下にありました。後堀田氏は、正盛三男の正俊 (春日局養子、後に大老古河16万石) を祖とし、正亮以後佐倉堀田の家系として最後の藩主正倫まで続き、旧堀田邸ほか多くの名蹟が今も残ります。

■堀田正睦の外交と藩政



堀田正睦古写真
(堀田正典氏蔵)

幕末に老中首座としてハリスとの日米修好通商条約交渉に身命を賭し、鎖国から開国へと導いた9代正睦 (前名正篤) は、藩の内政においても文武や農業の振興・財政改革・学制改革・赤子間引きの禁止・種痘の率先実施など多くの開明的施策を取り入れますが、中でも洋学を積極的に取り入れ、洋式軍事の早期導入や、わが国最初の私立蘭方医院兼医学塾順天堂の開設など、その先進的業績が幕末期の諸国大名に多大の影響を与えました。佐倉城内三の丸御殿 (現自由広場西端、城址公園入口付近) で亡くなりました。



佐倉 基大寺本堂
(堀田家位牌寺)



■佐倉城の構造

佐倉城は、北に広大な印旛沼を控え、鹿島川高崎川を眼下に見下ろす鹿島台地に位置し、周縁には急崖とこれに添った水堀を巡らし、西南城の崖下には深い湿地帯が連なる後堅固の城と言われ、天然の要害を巧みに取り入れ極めて理論的に縄張された近世城郭の典型で、房総随一の規模を持つ城です。本丸は城郭西南端部に位置し、三層天守・銅櫓・角櫓・400畳余の本丸御家形が一の門・台所門などと共に配置され周囲土塁は瓦堀で廻らされていました。本丸から東へ二の門・三の門・大手門をほぼ一直線上に、北方へは城米不明門・椎木門・田町門 (脇手)、佐倉道口に鹿島橋門など九つの城門を配備し、本丸までは4重5重の深い空堀・土塁、馬出し・升形等で防御を堅めました。



二の門近くに立つ堀田正睦公像
政務を行う二の丸御殿に近く、財政難に苦しむ佐倉藩の改革を決意した若き日の姿を再現しています。

■太田道灌と銅櫓

徳川実記寛永6年6月6日の条に、江戸城山里曲輪の新庭造営を小堀遠州に命じた折、御茶室鎖間近くにあった三層楼を利勝に給わり、利勝はこれを佐倉へ運び補修して天守としたとあります。また明治初期に書かれた佐倉城旧記には、「此 (銅櫓) は江戸城吹上の庭内にありて不用となりしを、利勝に給ひ移ししものなり」とあり、良材を用いて驚くほど精巧に造られた古建築で、太田道灌が風雅を楽しんだ建物であったと推測し、もとは三層楼で二層に改造したと記されています。此のようなことから道灌の江戸城静勝軒移築説が生まれたものと考えられます。



銅櫓 (解体時)
(菅谷義範氏蔵)

■藩主と家臣の屋敷

本丸御殿は、家康・秀忠が鷹狩御成りの折に宿所としたため、代々城主は年始・五節句などのほかは常用せず、二の丸内の御対面所 (延413畳) に居住しました。御対面所老朽後は、三の門外空堀の東手に三の丸御殿を造営、ここを住まいとしました。幕末に老中首座として開国条約締結に奔走した堀田正睦は、公卿衆などの抵抗から勅許が叶わず、その責を背って老中を辞し佐倉蟄居となりましたが、その折この邸内で波乱の生涯を閉じました。

三の丸には、代々城代級の重臣の屋敷などがありました。上・中級武士の屋敷は一部を除き三の門外の惣曲輪 (現自由広場・くらしの植物園・佐倉東高・佐倉中など) の大手門に至る広小路両側一帯と、椎の木曲輪 (現歴博) に置かれました。大手門外には、幕末に大きく改革され、町人にも解放した藩校成徳書院 (現市民体育館周辺・佐倉高校の前身) や、広大な武家屋敷地があり、佐倉街道沿いに賑わった城下町の中や周辺にも寺院や武家地が連なっていました。

■佐倉惣五郎物語

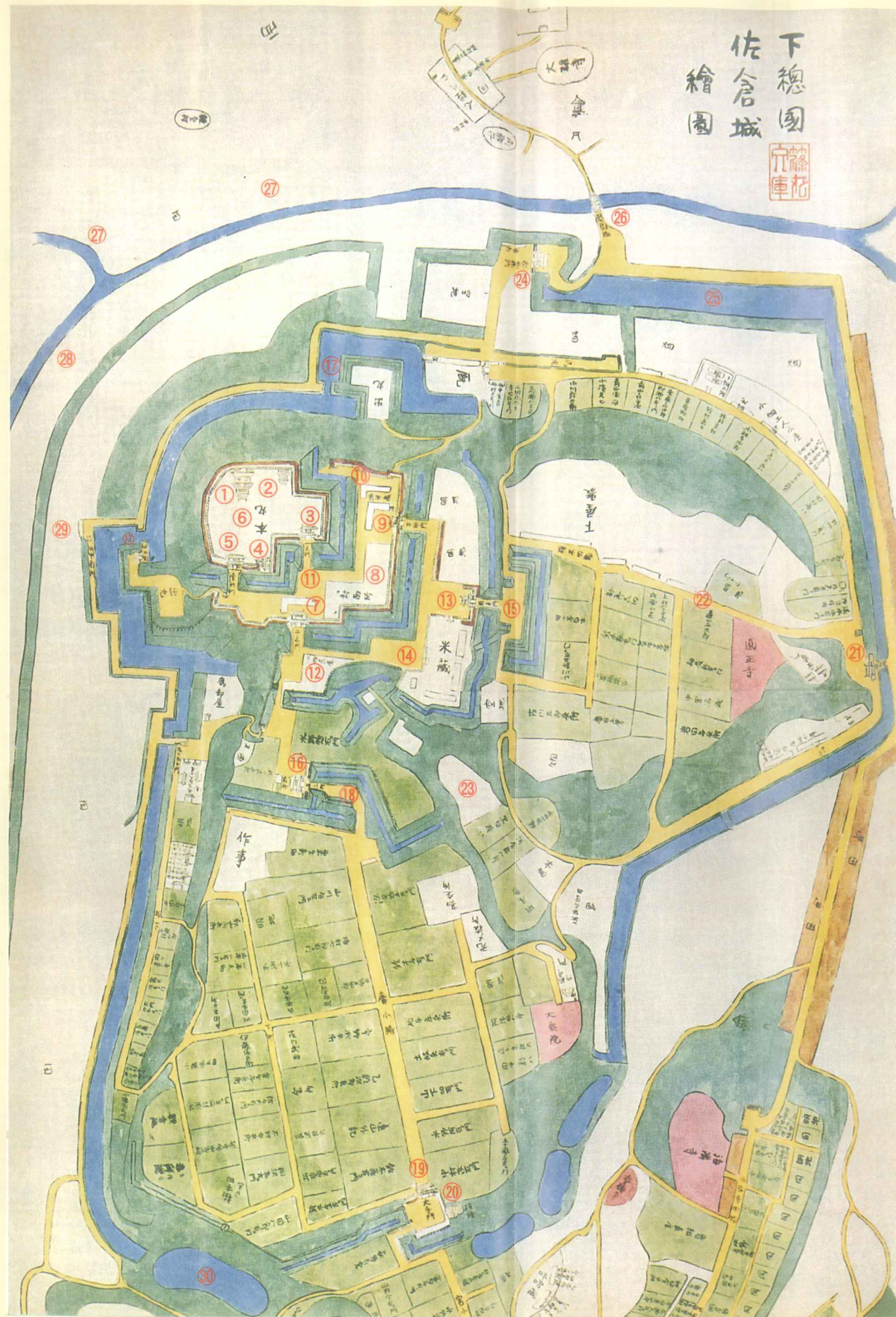
惣五郎の伝説は、江戸初期堀田正信時代の騒動として口伝され、約百年後に物語として文書の体をなし、約二百年後の幕末に江戸大阪で芝居として上演、評判になりました。人物実在は別として、感涙を呼ぶ名場面など史実の認定は今後も困難な課題とされましよう。

下総国佐倉城絵図

徳川頼彦氏写
現所蔵者不詳

【松平乗久時代「寛文元(1661)~延宝6(1678)の絵図】

この絵図は、利勝時代の寛永年中佐倉城絵図(1624~1633)、堀田氏所蔵の佐倉城大絵図「伝正保絵図控え(1644~1647)」と共に江戸初期の城内動静を知る重要な資料と考えられます。



- 1 天守
- 2 銅櫓
- 3 一の門
- 4 角櫓
- 5 台所門
- 6 本丸御家形
- 7 二の門
- 8 御対面所
- 9 城米不明門
- 10 城米蔵
- 11 二の丸
- 12 小姓屋敷
- 13 椎木門
- 14 三の丸
- 15 角馬出し
- 16 三の門
- 17 引橋
- 18 馬出し
- 19 大手門
- 20 鐘楼
- 21 田町門
- 22 愛宕坂
- 23 姥ヶ池
- 24 鹿島橋門
- 25 三十間堀
- 26 鹿島橋
- 27 鹿島川
- 28 高崎川
- 29 土井筑堤
- 30 三味線堀

絵図に示す番号により、右側の主要構造物を参照して下さい。



■佐倉城天守と古河城御三階櫓

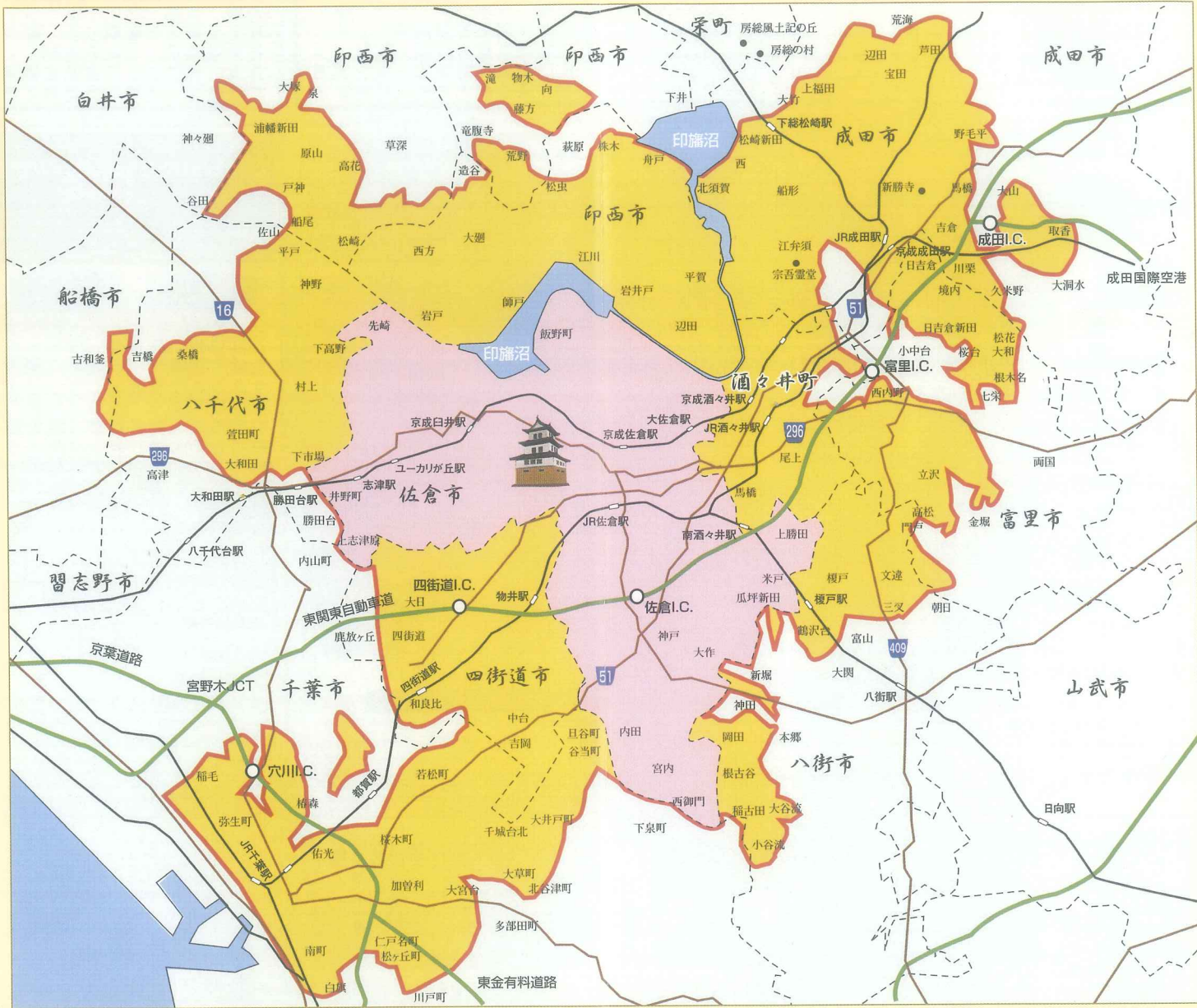
利勝は佐倉から古河に転封（1633）されると、直ちに古河で御三階櫓を築造します。当時天守と称する建物を新造することは、幕府に対し憚れる状況があり、御三階と称しました。この櫓は、佐倉城の天守を基に設計されたと伝えられ、指図（設計図）や古写真も現存しますが、城郭中枢部が後に渡良瀬川の河川改修により河川敷と化したため復元は不可能になりました。佐倉城天守跡の発掘調査により検出された礎石の配置は、古河城御三階基礎の柱位置と極めて酷似していることが判明し、佐倉城天守の復興には古河の指図が重要な資料となるとの指摘があります。



古河城御三階櫓（軸組模型写真） 古河歴史博物館蔵

■旧佐倉藩領 投影図（安政年間） 拾一万石のうち、城付き六万石部分

※イラストはイメージ化して描いてありますので、一部実際と異なる事があります。



この図は、幕末期の佐倉藩十一万石のうち、城付き六万石の領分を現在の行政区画に投影したもので、近隣11ヶ市町村にまたがります。残りの四万石は山形の柏倉に、他の一万石は栃木県さくら市、茨城県桜川市など関東地域に飛地として分散知行されました。両市に佐倉藩の「さくら」が入っているのが面白いです。

領内に抱える印旛沼は、干拓以前は利根川とも結ばれて、利根川水系諸国との交易や渡船による水戸道・日光道・中山道への経路でもあって、内陸水系として経済・交通・産業に重要な役割を果たしました。また海上水利の面では、江戸湾に注ぐ現千葉市の都川河口域の寒川・登戸に佐倉藩唯一の外港があって、江戸や諸国との海上交通や交易の拠点でありましたが、これが今日千葉県国際港として活躍する海の玄関口千葉港に発展しました。廃藩置県後に、千葉県庁や裁判所、鉄道千葉駅などが置かれて千葉市の中心となった部分は、江戸時代の佐倉藩領の一部でありました。

また、成田山新勝寺は佐倉藩領内の寺院でした。幕末期には香取市佐原地区も佐倉藩領となるなど、藩域は時期により多少変わります。

■佐倉城 九つの城門

戦国時代以来、二階門形式の櫓門が現れ、信長の安土城の折は、城内に建てさせた被官の大身武将の屋敷にも櫓門をあげさせています。その後江戸期にかけて、各大名が権力を誇示するため、居城の主要な郭の虎口（入口）にこれを構えるようになりますが、その場合にも格式に応じた配慮がなされました。櫓門は、その形式を大別すれば2種あります。ひとつは両側に石垣を置き、その間に門扉を挟んでその上に渡り櫓（多間・長屋と同義）を乗せた渡櫓門であり、他のひとつは総二階造で1階左右を待詰所または土間空間などとし、中央に門扉を置く楼門形式二階門ですが、両者折衷の構造をしたものもあります。前者は江戸城内の大手門・田安門等々その他代表的には名古屋城・大阪城・熊本城、復元された小田原城の常盤木門・銅門など数が多い。総二階楼門は仙台城大手門・鹿児島城楼門・彦根城菱御門・弘前城の五棟の城門、その他上田城・大和郡山城等があるが、佐倉城の各門はこの形式に属し、その規模については、仙台・鹿児島・彦根・弘前など大藩に比肩するものといえます。その構造は、写真に残る各門とも入母屋二階造、出格子、四方吹き下ろしの腰屋根が付いています。古写真で見ることがざかりにおいて、一ノ門が真壁造であるほかは大壁造で、出格子・軒裏共漆喰塗込めのほぼ統一された形式です。佐倉城の主要な城門は、大手門・一ノ門・台所門・二ノ門・三ノ門・鹿島橋門・城米不明門・田町門の9門を数えます。このうち大手・一・二・三・椎木の5門については、写真が今日に残されています。現存する城絵図資料のなかで、櫓・城門等の姿を描いたもののうち、簡略ながらも凡その姿をとらえることができるものは、佐倉城大絵図（伝正保絵図写・堀田家蔵）ほか7、8点があるが、かなり信憑性が高いとされるのは佐倉城大絵図など3、4点程度と考えられます。これらの絵図資料により、9門のうち田町門だけが一階造りで、これを除く8門は二階門であったことがわかります。佐倉城の城門は、城内建造物の特色と言えますよう。

城郭研究者の佐倉城評価

ー千田嘉博氏（奈良大学文学部教授）などー

■石垣ないが巧みな築城

江戸時代のお城についての一般的な印象の第一は、扇形に弧を描く高い石垣と、この上に聳え立つ白垂の天守でありましょう。しかし佐倉城は、老中という幕府要職にあった土井利勝が築いたものでありながら石垣がなく、城という字が土編に成ると書くように、台地上の土を盛り上げ、或いは掘下げて縄張を構成しました。

このことについて、国立歴史民俗博物館の千田先生（当時）は次のように示されています。「石材が入手しにくい関東では、江戸時代になっても土づくりの城は少なくない。（佐倉城が）石垣を持たないことは意図的に選択したというより地理的条件によると考えられるべきで、利勝にしても石材の入手が容易であったなら石垣の城として築城したに違いない。しかし石垣を持たなかった分、佐倉城は自在に台地を加工して巧みな城をつくり出した」（『天下統一と城（佐倉城を歩く）』所収）。

■城跡の良好な保存状況

佐倉城跡の特色として、その遺構の保存状況については、佐倉市が佐倉城問題に関して設置した検討委員会の、高度の専門家からなる専門部会から、平成11年に出された答申書にも「変容の多い近世城郭遺構としては、賞賛に値する良好な状態で遺存しており、貴重な文化財であることを確認した。」と表明されております。

また千田嘉博氏も「明治以降佐倉城には、佐倉連隊・国立佐倉病院・そして博物館建設によって改変を受けてきたが、主要部の遺構は驚くほど良く残っている。（中略）城址を歩けば随所に城の名残を発見することができる。」と指摘されました。



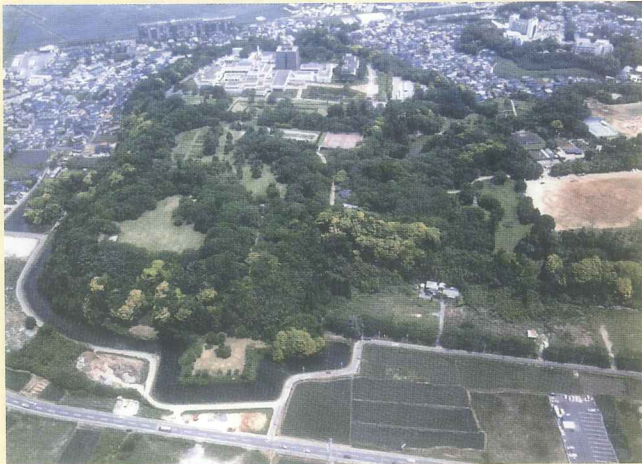
佐倉城現況航空写真

■佐倉城縄張の特色

千田氏の所属される博物館は、旧佐倉城椎木曲輪を中心とする部分に立地し、全国、更に世界的な視野から、佐倉城の構造を考察されるのに便利な状況があり、先鋭的な視野から深い考察をされています。そのご指摘のひとつに、「佐倉城の縄張の特色は、馬出しと言う固く守りながら出撃するのに適した出入り口を、要所に備えた点にある。」とされ、角馬出しや三の門前の馬出しなどについては、城郭の防衛施設の工夫の実態を観察することを勧めておられます。このように、佐倉城は土づくりの城であっても、江戸時代の城として技巧に富んだ城であったこと、土づくりであるために天守を含め櫓は四つしか置かなかったが「地形を活かして工夫を凝らした縄張は、近世初頭の城郭の到達点を示すもの」と特色を示されました。

なお、城郭周辺の景観が急激に失われつつあることを危惧され、「佐倉城は、今後整備が進むことで、一層人々に愛される城郭になっていくことを期待する。」と述べられています。

（参考）：2000年10月国立歴史民俗博物館企画展「天下統一と城」図録163頁（佐倉城を歩く）



西方上空からの城址景観 手前清水出丸

古写真に残る佐倉城城門



大手門



一の門



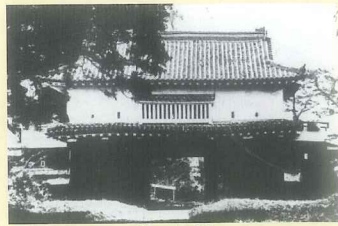
二の門

下掲の古写真は明治の初めに阿部忠枕により撮影されたもの。佐倉城は残念ながら残された建築物を明治初期の軍営設置により総て失われました。

菅谷義範氏蔵



三の門



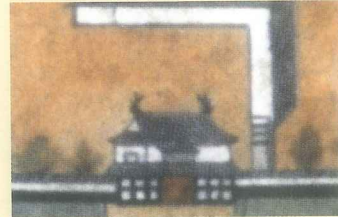
椎木門

写真資料のない門

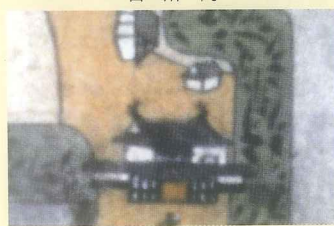
佐倉城大絵図より 堀田正久氏蔵



台所門



城米不明門



鹿島橋門



田町門

日本百名城No.20 佐倉城

（財）日本城郭協会は、文部科学省・文化庁の後援を得て2005年に日本百名城の選定事業を立ち上げ、候補城の推薦を呼びかけていたが、この度全国から寄せられた478城について、歴史学・建築史学等の著名な学識者6人による最終選考を終え結果を発表した。

この中で佐倉城は、千葉県を代表する名城として選ばれる栄誉を得た。選考は、城の歴史を考える上で重要な城・館（防御施設）を対象に、弥生時代（吉野ヶ里）から江戸時代（江戸城・姫路城など）に至る ①文化財・史跡として優れた価値（模擬天守の評価を加味） ②著名な歴史の舞台 ③時代や地域の代表…などの3要素から総合的レベルで判定された。

佐倉城は2011年築城400年の節目を迎えた。これにより佐倉城の持つ文化的価値や観光資源としての資質が、全国的に一段とアピールすることが期待される。地域別分布は、北海道東北13城、関東甲信越19城、北陸東海16城、近畿14城、中国四国22城、九州沖縄16城（計100城）。



佐倉城址公園 周辺案内図

・京成佐倉駅南口バス1番線より乗車「国立歴史民俗博物館」または「国立博物館入口」下車
・JR佐倉駅北口バス1番線より乗車「田町車庫」行「国立博物館」下車

発行 千葉県佐倉市
企画 佐倉市産業振興課
Tel. 043-484-6146
問合せ 佐倉市観光協会（観光案内所）
Tel. 043-486-6000
初版 2014.3